

万博と祖父

昭島市立昭和中学校 3年 田中 蒼依

私の祖父は終戦の翌年生まれだ。長年、建設業の会社員として働いていた。今は持病とうまく付き合いながら日々の生活を送っている。そんな祖父には今、一番楽しみにしているものがある。それは「大阪・関西万博 2025」だ。1970年の祖父がまだ20代の頃に開催された大阪万博は、東京オリンピックに続いて日本のビックイベントだった。当時、日本中がその話題でもちきりになり、連日テレビで放送されていたと聞く。祖父は祖父の妹を連れて車で会場の近くまで行ったが、あまりの混雑ぶりで遠くから雰囲気だけを見に帰ったという。私が、「せっかく行ったのに残念だったね」と言うと「それはそれで思い出になったよ」と笑って返してくれた。そして2005年に愛知万博が開催された時には、家族と訪れて大いに楽しんだそうだ。あまりにも楽しかったようで、その頃から「また行きたい」とずっと言っているらしい。

現在、再来年行われる大阪・関西万博の工事が進んでいる。最近見たニュースによると、工事の進捗状況が遅れていて、さらに昨今の材料費高騰の影響を受けて工事費用の増額が決定されたとあった。大阪府知事が、「税金の負担を増やさないようやっていく」と言っていたのを聞いて、なるほど、こういったことにも税金が使われているのだなと知った。私を知る税金の使い道は、学校、警察、消防、道路、市役所、水道だ。私が産まれる前から当たり前であり、毎日安心・安全に暮らすことができる。また、病院で診察を受ける時は医療費が一部負担で済むし、ゴミは家の前に出せば回収してくれる。私たちの日常が守られているのは、税金があるからこそだ。そんな生活が送れるのは紛れもなく、祖父たちが一生懸命働いて、国や地方を支えて頑張ってくれたおかげだ。祖父が若かった時代は経済が急成長して仕事が忙しく、趣味や旅行ができない人も多かったそうだ。休む間もなく働き続ける毎日の中、「人類の進歩と調和」をテーマにした大阪万博に、祖父と同じくたくさんの方が思いを馳せ心躍らせたのだ。

大阪・関西万博 2025 では「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで「未来社会の実験場」をコンセプトにしている。未来社会を「共創」し、人類共通の課題解決に向け、世界の英知を集めて発信する。新しい技術の開発や経済発展は環境問題を視野から外して進めることはできない。今回の万博も次世代技術で私たちをわくわくさせてくれて、自然を共生できる社会を実現するためにとっても有意義なものになるだろう。税金は、社会保障や公共事業など日常的に国民のために使われるものの他に、キラキラ輝く未来を見せてくれる。そしてみんなで世界の問題について一緒に考えるよう呼びかけ、環境意識を持つことを働きかけている。私は将来、納税で社会に恩返しをしたい。祖父たちが築いた誇らしいこの国を守り続けたいと思っている。